

# 不安の時代の8つの市民像

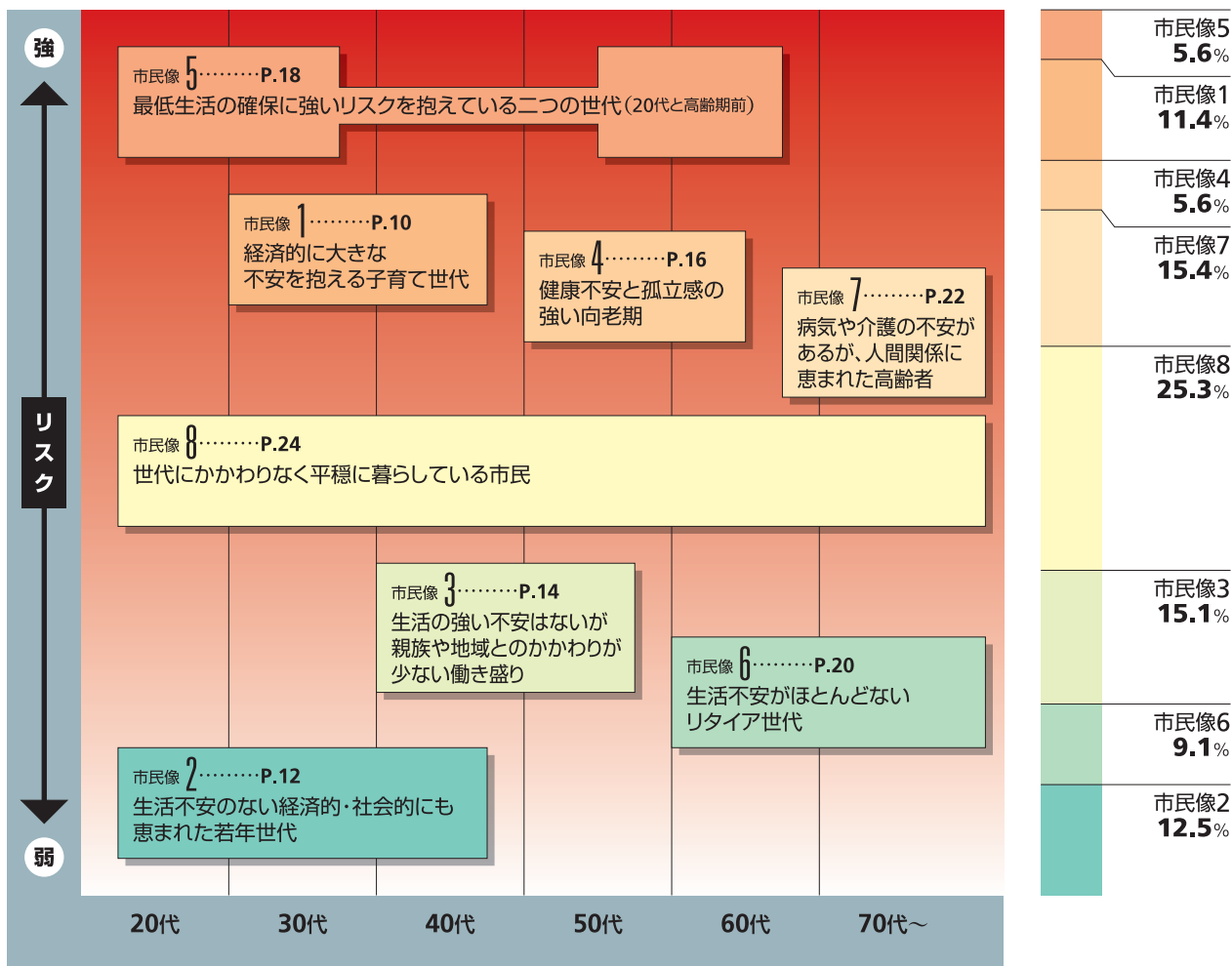
生活のリスク感や日常生活で頼りにしている人など、市民意識調査のいくつかの質問項目を使って、回答傾向の似た人たちのまとまりをみるための分析(138頁)を行った。その結果、8つのグループを抽出した。図1-12は、そのグループをリスクの強弱と年代別に示したものである。

年代別にみると、30代から40代前半にかけて、経済的な不安を抱える子育て世代(市民像1)と、やはり30代を中心とした年齢層でリスクをほとんど感じていないグループ(市民像2)がある。また、40代の働き盛りの中年世代でリスク感の弱い働き盛りのグループ(市民像3)がある。50代になると人間関係に強い孤立感を抱き、収入や健康面でもリスク感の強いグループがあらわれる(市民像4)。さらに、最も深刻なグループは、20代と50代後半から60代前半の二つの年齢層にあり、この人たちは、最低生活の確保や仕事、健康、人間関係など多くの側面で強いリスクを感じている(市民像5)。高齢世代になると、強いリスクを感じていない男性の多いリタイアグループ(市民像6)と、女性の高齢者が多い、健康や介護にやや強いリスクを抱えるが人間関係が豊富なグループ(市民像7)がある。また、どの世代にも万遍なく、強いリスク感はないがリスクが無いとも思っていない、どの項目も全体平均に近いグループ(市民像8)がある。

生活不安は、市民生活の隅々まで増大はしているが、深刻な市民と漠然とした不安を感じている市民、不安のない市民と様々である。次に各市民像の特徴をみていく。

図1-12 | 不安の時代の市民像

市民像の割合



# 市民像

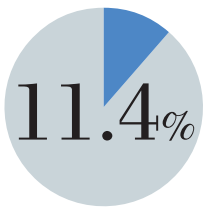
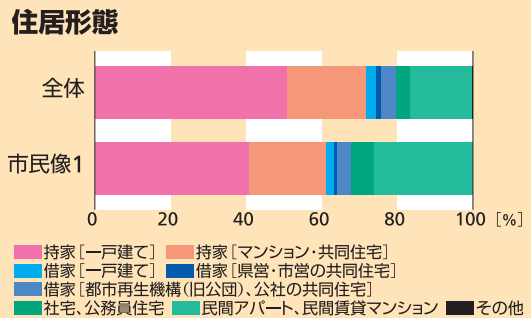
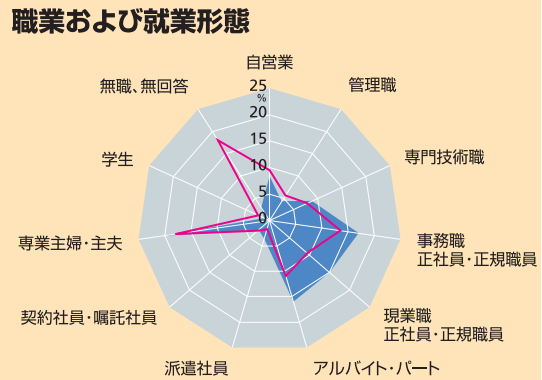
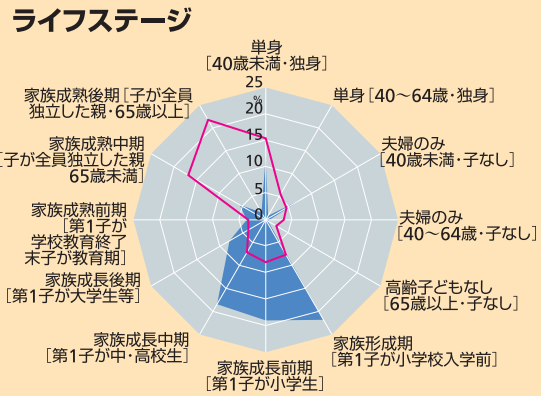
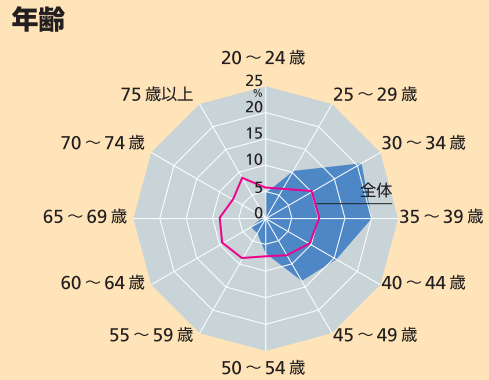
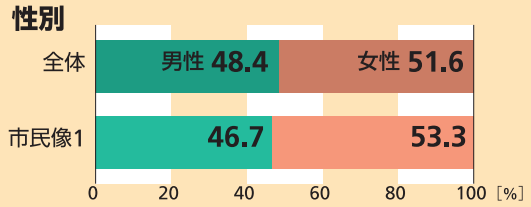


## ◎ 教育費、住居費のリスクが

5割前後で高い

このグループは、「教育費の確保」で強いリスクを感じている人が56%にもおよぶ。また、「住宅ローンや家賃の確保」で46%が、「税金や保険料の支払い」では41%が、「医療費の確保」でも4割近い人が強いリスクを感じている。「低収入、収入低下」は3割近くで、子育て期の生活を営む上で苦しい経済

## 市民像 1 のプロフィール



# 経済的に 大きな不安を抱える 子育て世代

生活満足感、市政全体への満足度、喜びや生きがい、居住環境(住まいの環境の暮らしやすさ)の全体値については138頁を参照 | 大切にしている人は43頁を参照

状態にあることがうかがえる。

◎ 人間関係のリスク感は低い

家族や親族、友人、近隣関係などのリスク感はずいぶん低く、実際に「子どもの世話」を頼める人や家事の手伝いなども、親族、友人・知人、近隣などに幅広くあり、「経済的に困ったとき」も、親族の援助を得られる割合は83%にのぼる。

◎ 生活満足度は低い

満足層は、51%と平均の64%をかなり下回り、不満層は33%で平均の19%を上回る。

◎ 喜びや生きがいは

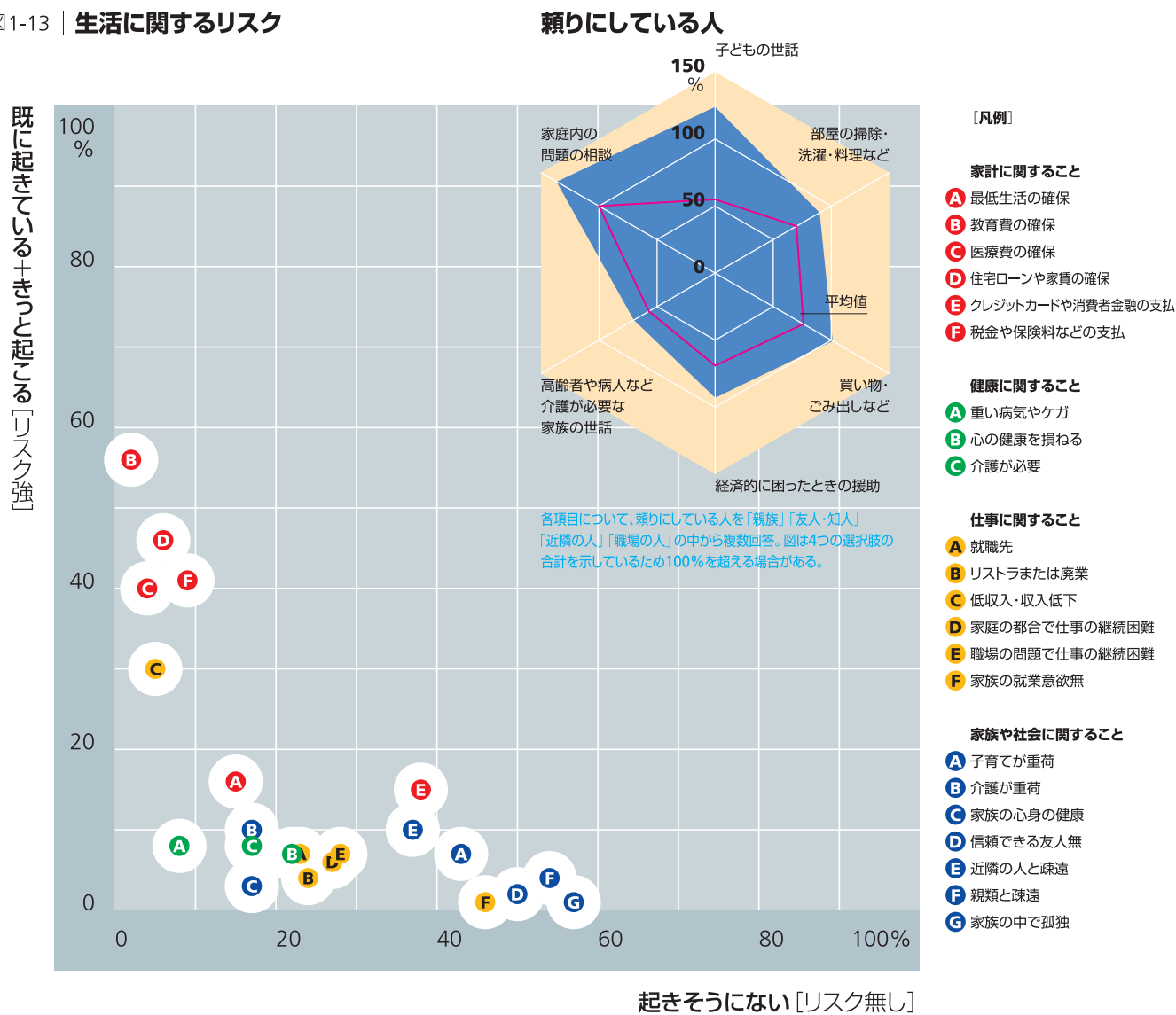
家族や友人との付き合い

「家族との団らん」「友人との付き合い」「育児・教育」をあげる人が多い。

◎ 市政への満足度も低い

満足層は21%と平均の31%よりかなり低く、不満層が31%で平均の23%を上回っている。市政要望は、「買い物道路や歩道の整備」「子育て支援や保護を要する児童の援助」「学校教育の充実」「病院・救急医療」「防犯対策」「経済的に困っている人への保護」で平均を上回っている。

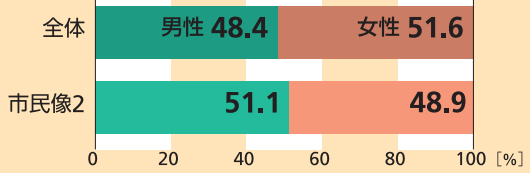
図1-13 | 生活に関するリスク



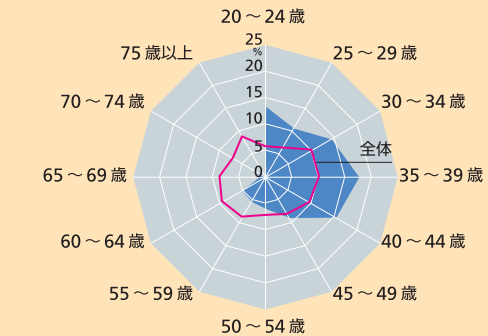
各項目について、「既起きている」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既起きている」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したもの

## 市民像 2 のプロフィール

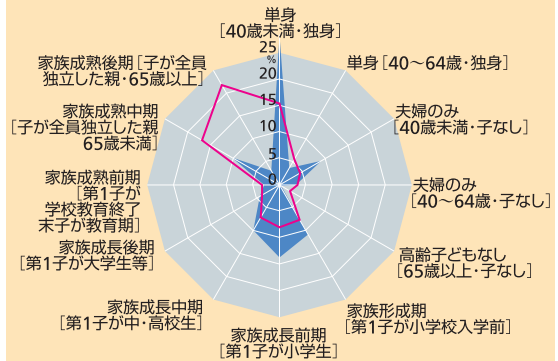
### 性別



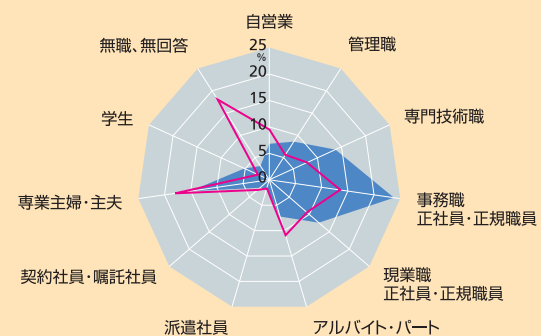
### 年齢



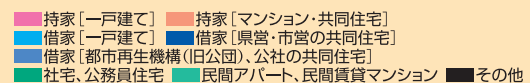
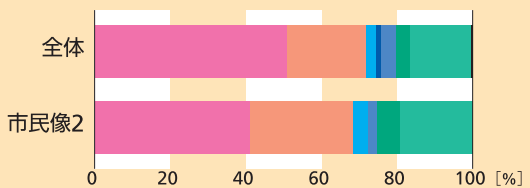
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



# 市民像



◎ 生活費の確保、健康、仕事、住宅など  
どの側面にも不安がない

「最低生活の確保」、「医療費の確保」「住宅ローン  
の返済や家賃の確保」はリスク無が6割を超え、  
強いリスクを感じている人はほとんどいない。「重い  
病気やケガ」は5割がリスク無、「心の健康」は6  
割がリスク無で、強いリスクは1%前後と少ない。  
「リストラまたは廃業」は7割が、「低収入・収入

12.5%

生活不安のない  
経済的・社会的に恵まれた  
若年世代

低下」では5割以上が「職場の問題で仕事の継続困難」も7割弱がリスク無と答え、リスクを強く感じている人はやはりほとんどいない。

◎ 人間関係も豊富でリスク無

「信頼できる友人無」「親類と疎遠」「家族の中で孤独」などリスク無は6割台で、強いリスクはほとんどない。日常的に頼れる人も、親族や友人・知人に多くいる。家族の次に大事な人として、勤め先の友人・知人、学生時代の友人・知人をあげる人が多い。

◎ 生活の満足感が高い

8割以上が満足層で、不満層は15.5%と少ない。

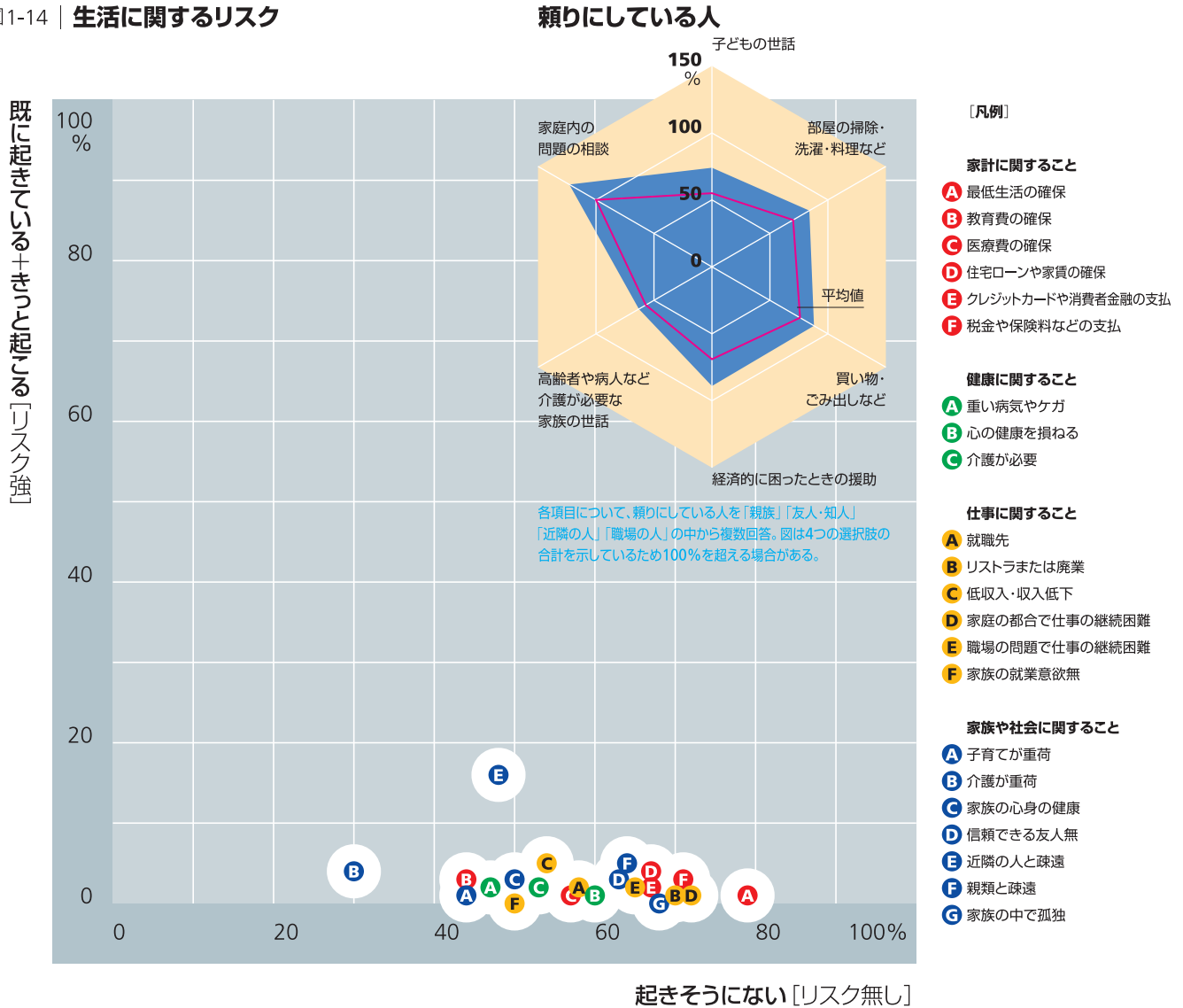
◎ 喜びや生きがいは豊富

趣味やスポーツの活動」「仕事・商売」「家族との団らん」「友人との付き合い」など豊富である。

◎ 市政にはまあ満足

市政満足度は「まあ満足」「どちらとも言えない」が多く、不満層は15%と少ない。市政要望には、とくに特徴がない。

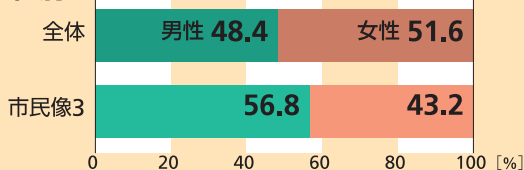
図1-14 | 生活に関するリスク



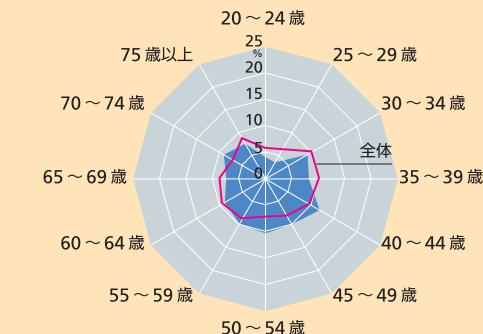
各項目について、「既に取り起きている」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に取り起きている」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したもの

## 市民像 3 のプロフィール

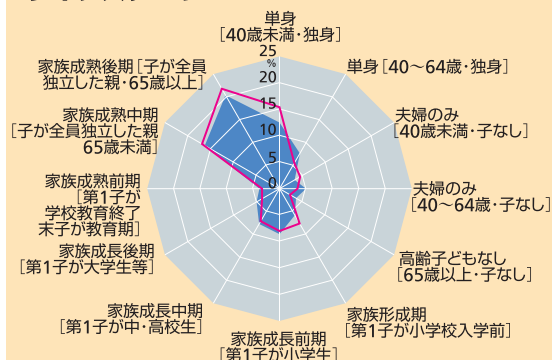
### 性別



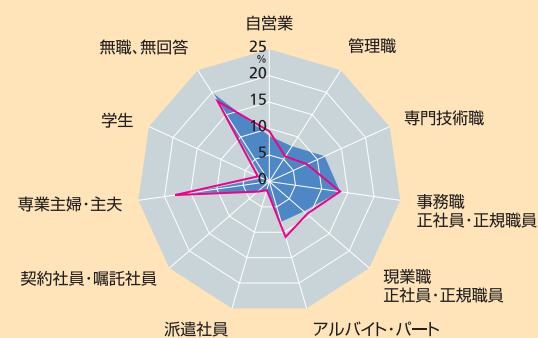
### 年齢



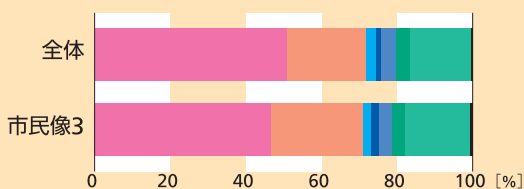
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



■ 持家 [一戸建て] ■ 持家 [マンション・共同住宅]  
■ 借家 [一戸建て] ■ 借家 [県営・市営の共同住宅]  
■ 借家 [都市再生機構(旧公団)、公社の共同住宅]  
■ 社宅、公務員住宅 ■ 民間アパート、民間賃貸マンション ■ その他

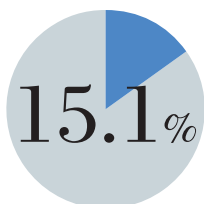
# 市民像

# 3

生活費の確保、健康、仕事、収入などに  
強い不安はないが、  
漠然とした不安感をもつ

「重い病気やケガ」は77%、「介護が必要な状態」  
74%、「心の健康を損なう」は71%、「医療費の確  
保」67%など「起きるかもしれない」という漠然と  
した不安を持つ人の割合が高いが、強いリスクは、  
平均よりかなり少ない。「リストラまたは廃業」低

生活の強い不安はないが  
親族や地域とのかわりが  
少ない働き盛り



生活満足感、市政全体への満足度、喜びや生きがい、居住環境(住まいの環境の暮らしやすさ)の全体値については138頁を参照 | 大切にしている人は43頁を参照

収入・収入低下」など仕事面でも強いリスクは感じていないが、「起きるかもしれない」と漠然と感じている人が平均より多い。

◎ 親類や近隣とのかかわりが少ない

「信頼できる友人無」「近隣の人と疎遠」「親類と疎遠」「家族の中で孤独」など人間関係においても強い不安は少ないが「起きるかもしれない」という漠然とした不安は、平均よりかなり多い。また、具体的な場面の「頼める」人は、図のとおり、どの項目でも他のグループと比べて圧倒的に少ないのが、このグループの特徴である。

◎ 生活満足度は平均的

「まあ満足」「どちらとも言えない」がやや多い。

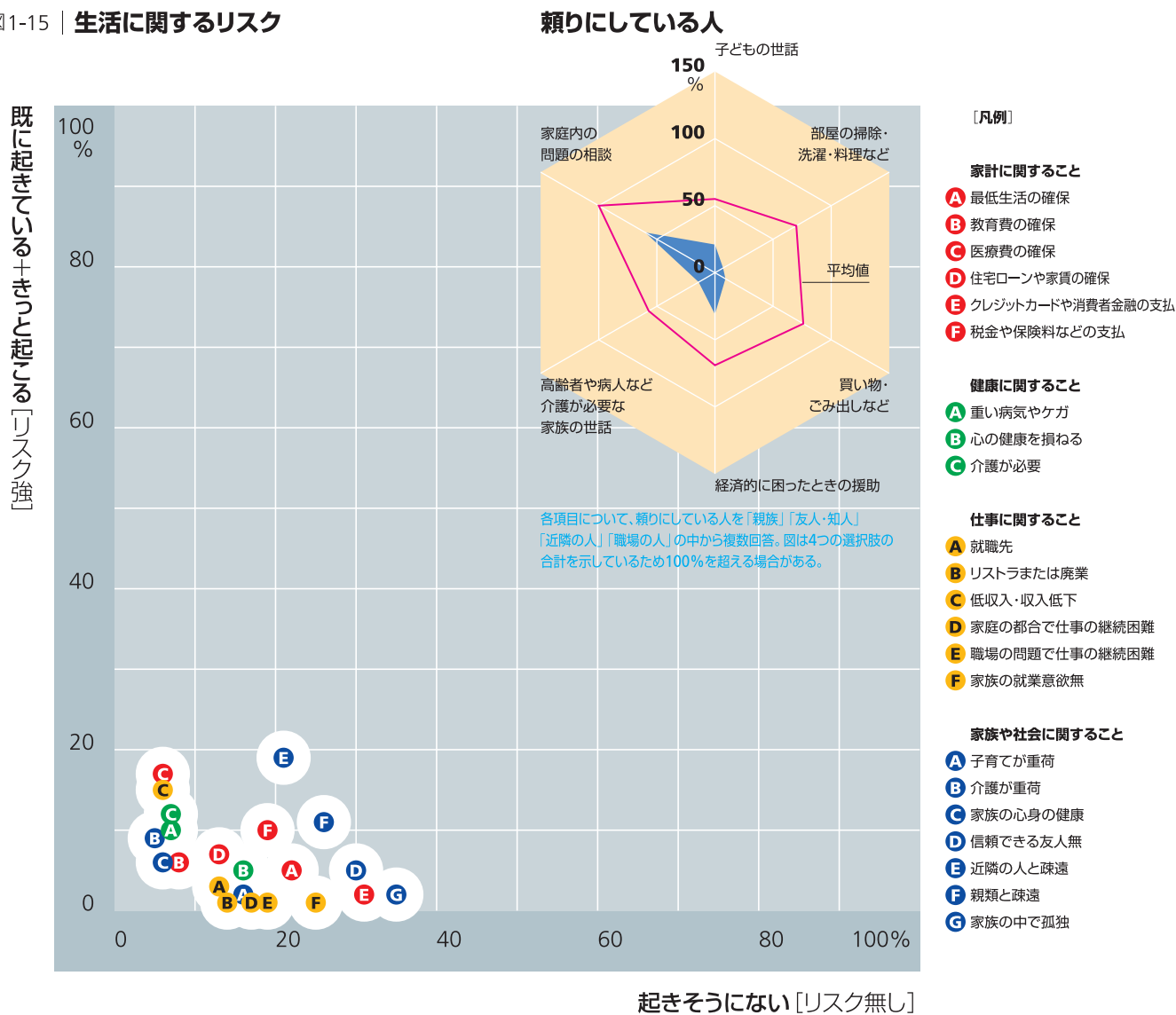
◎ 喜び・生きがいはどの項目も少なめ

「家族との団らん」「友人との付き合い」「子どもや孫の育児・教育」などはかなり平均より少ない。

◎ 市政への満足度はやや低め

満足層は、29%と平均よりやや少なく、「どちらともいえない」「やや不満」が平均よりやや多い。市政要望は、「食品衛生・環境衛生」「防犯対策」「生涯学習」「市民文化の振興」「スポーツ・レクリエーションの振興」「市民参加の推進」「身近な住民窓口サービス」などがやや平均を上回る。

図1-15 | 生活に関するリスク



各項目について、「既に来起きている」「きつと起くる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に来起きている」と「きつと起くる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したもの

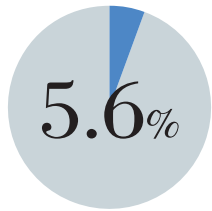
# 市民像

# 4

## ◎ 収入面や健康面での強い不安

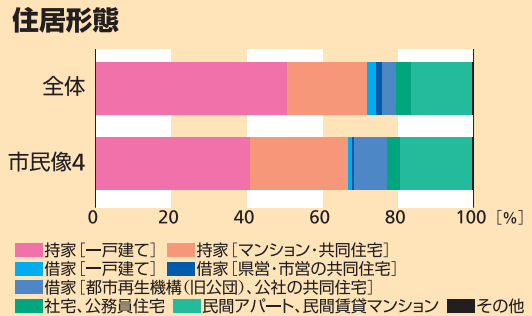
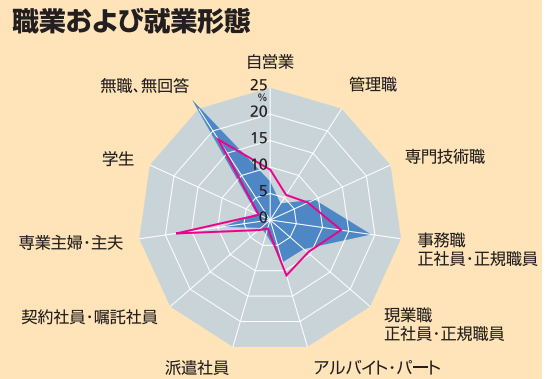
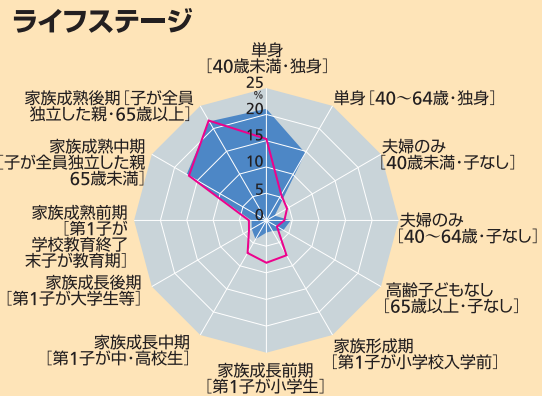
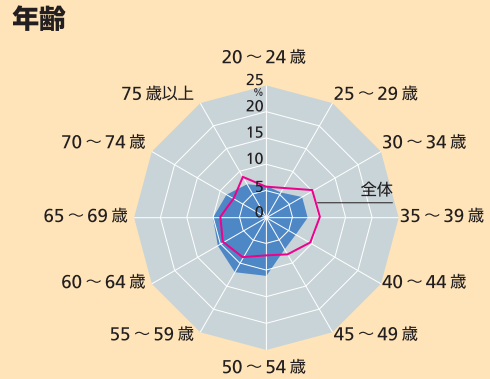
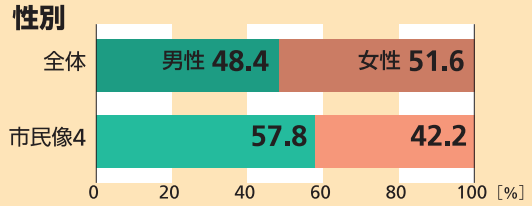
生活不安としては、「低収入、収入低下」が最も高く5割をこえる。ついで、「介護が必要」「家族が心身の健康を損ねる」「重い病気やケガ」が5割近く、収入面での不安と健康面での強い不安がある。

## ◎ 人間関係における強いリスク



# 健康不安と 孤立感の強い 向老期

## 市民像 4 のプロフィール



生活満足感、市政全体への満足度、喜びや生きがい、居住環境(住まいの環境の暮らしやすさ)の全体値については138頁を参照 | 大切にしている人は43頁を参照



このグループの特徴は、「近隣と疎遠」の強いリスクが7割、「親類と疎遠」が54%、「信頼できる友人がない」が46%、「家族の中での孤立」が3割と、人間関係において強いリスクを感じている市民が極めて多いことである。具体的な場面でも、図のとおり、頼める人が極めて少ない。

◎ 生活の満足度はかなり低い

満足層は33%、不満層は41%と多く、市民像5の次に不満層の多いグループである。

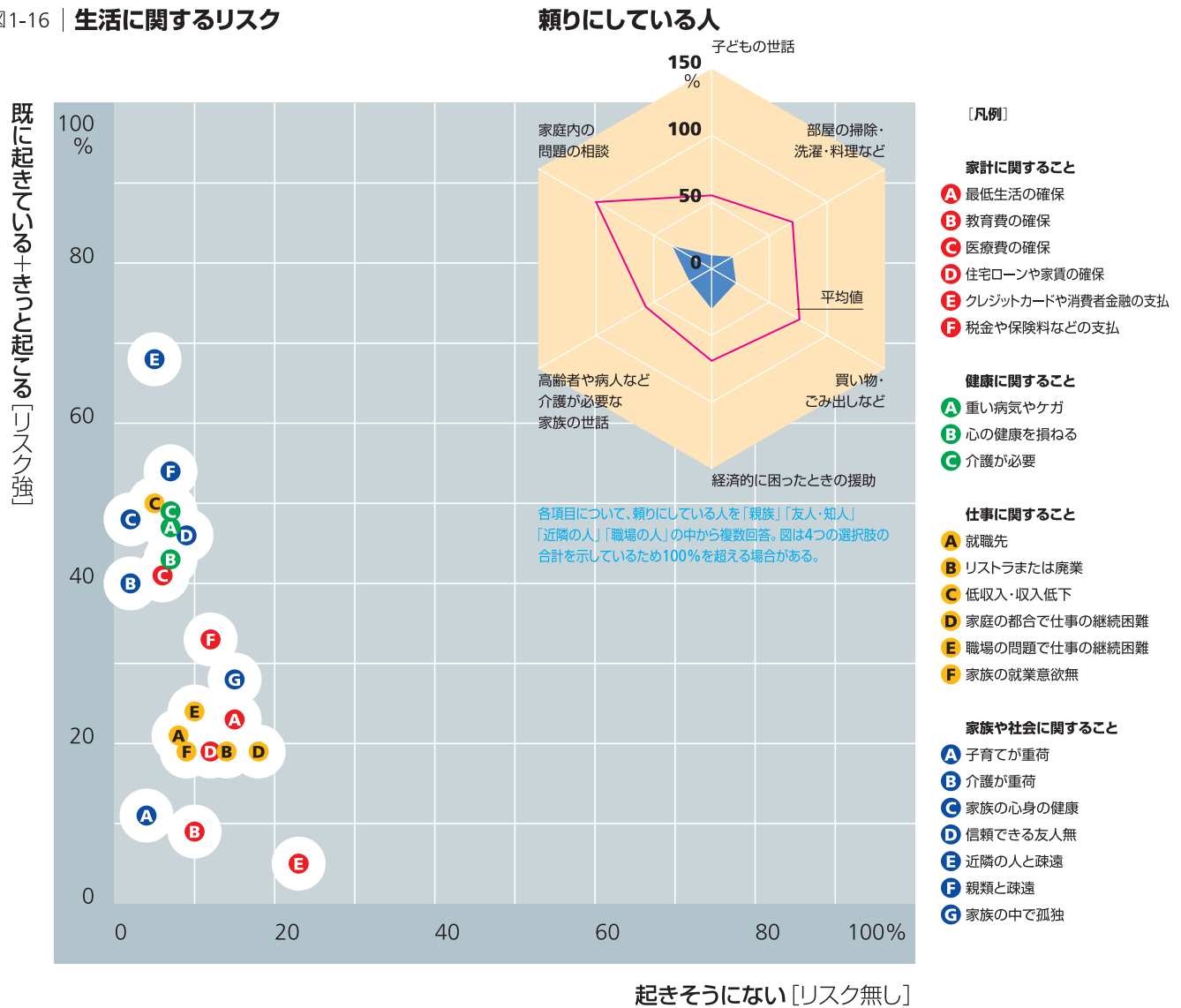
◎ 喜びや生きがいが少ない人が多い

「特にない」は23%と他のグループと比べて最も多い。一番大切だと思っている人は、「家族」の77%だが、他のグループが9割を超えているのと比較すると、最も低い割合である。

◎ 市政への不満層も多い

市政への不満層は、33%でかなり多い。市政要望は、身近なまちの環境整備、自然環境の領域、医療や福祉、生涯学習、市民文化の振興、市民参加など社会参加の領域など、どの項目についても平均より多い。居住環境の評価(138頁)についてもすべての項目で悪いとする人が大幅に平均を上回っている。

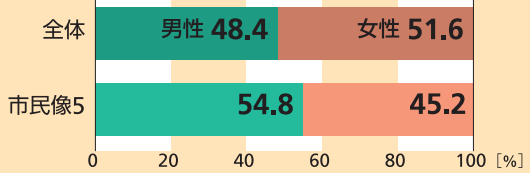
図1-16 | 生活に関するリスク



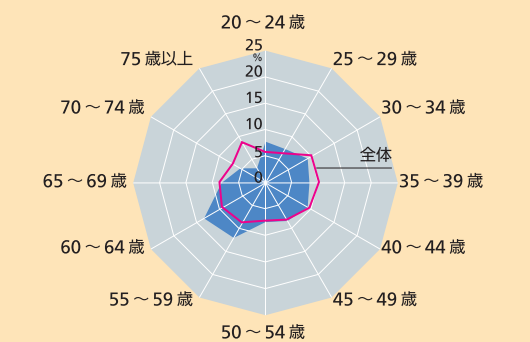
各項目について、「既にか起きている」「きつと起くる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既にか起きている」と「きつと起くる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したものである。

## 市民像 5 のプロフィール

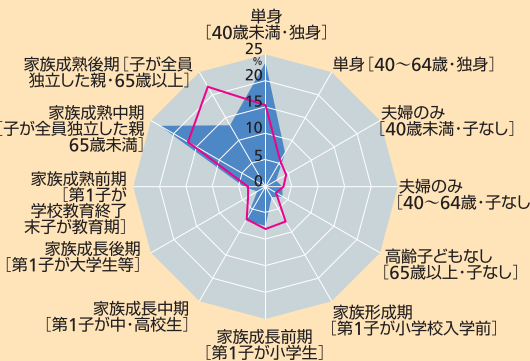
### 性別



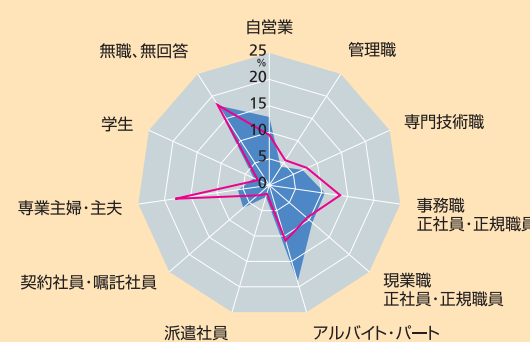
### 年齢



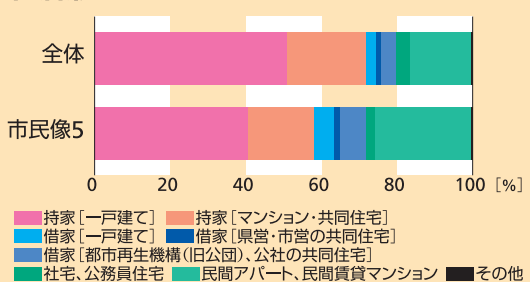
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



# 市民像

# 5

## 生活費、医療費、住居費、 病気や介護への強いリスク

「きこど起きる」「すでに起きる」と強いリスクを感じている人が「医療費の確保」については83% (平均は21%)、「税金や保険料などの支払」と「低収入・収入低下」については79% (同18、19%)と極めて多い。さらに「住宅ローンの返済や家賃の確保」は72% (平均14%)、「重い病気やケガ」「介護が必

5.6%

# 最低生活の確保に 強いリスクを抱えている 二つの世代(20代と高齢期前)

生活満足感、市政全体への満足度、喜びや生きがい、居住環境(住まいの環境の暮らしやすさ)の全体値については138頁を参照 | 大切にしている人は43頁を参照

要」、「最低生活費の確保」などは6割前後で平均を大幅に上回っている。生活費の確保について大きな困難に直面し、さらに病気や介護の不安と住宅の不安もある、という極めて深刻な状況下にある。

◎ 人間関係のリスク感も高い

近隣、親類、家族、友人と疎遠というリスク感かなり強いが、図のとおり、日常の場面では、頼れる人の関係は平均的にある。

◎ 生活の不満層が5割と多い

満足層は29%と少なく不満層が5割を超え、他のグループと比べ、最も生活不満が高い。

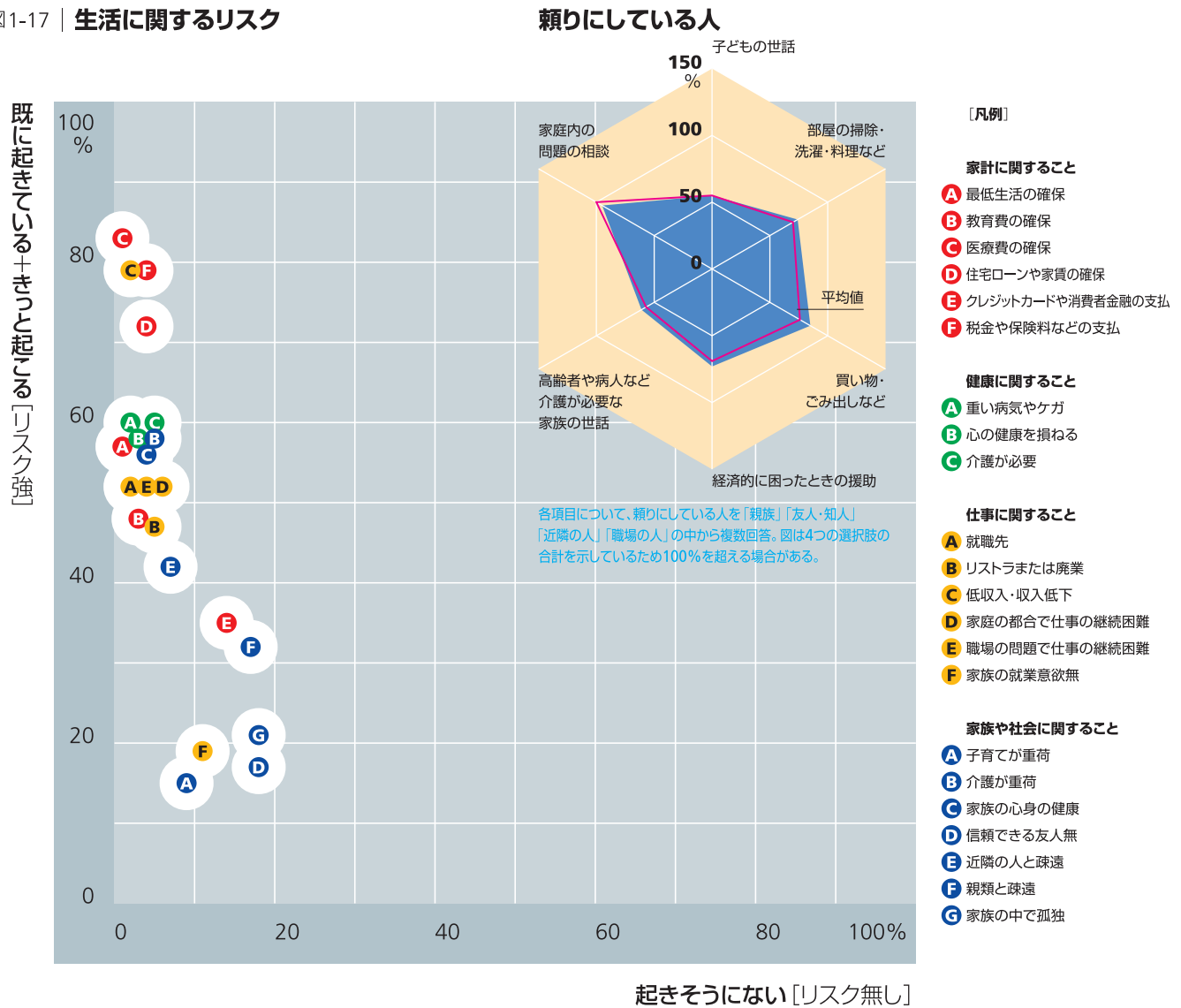
◎ 喜び・生きがいはどの項目でも平均より低い

「信仰・精神修行」「特にない」が平均より多くなっている。

◎ 市政満足度は低く  
福祉領域への要望が高い

市政への満足度は低く、不満層は45%と平均の23%をかなり上っている。要望は、「病院・救急医療」「高齢者や障害者が移動しやすい街づくり」「高齢者福祉」「障害者福祉」「経済的に困っている人の保護」「公的住宅の整備や住宅取得への融資」など医療・福祉領域で高い。

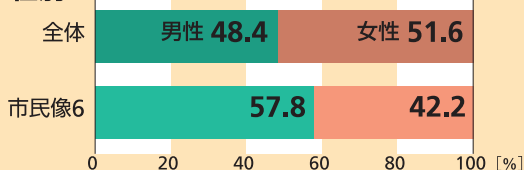
図1-17 | 生活に関するリスク



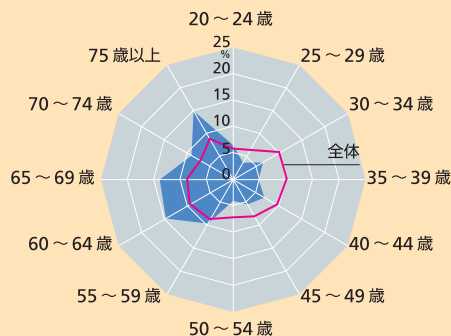
各項目について、「既に起きている」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に起きている」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したものの

## 市民像 6 のプロフィール

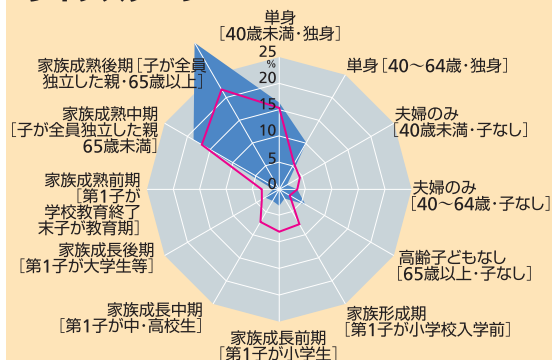
### 性別



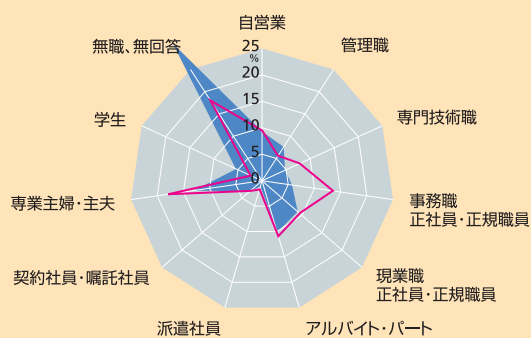
### 年齢



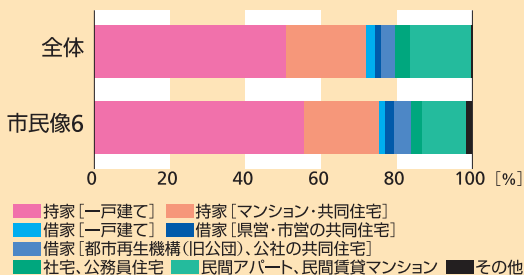
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



# 市民像

# 6

## 生活費や仕事、健康などの

### 不安は少ない

生活費や仕事の面では、ほとんどリスクを感じていない人が多いが、「起きそうにない」ではなく「該当しない」という項目に回答している人が多いのが、このグループの特徴である。たとえば、「最低生活の確保」「医療費の確保」「税金や保険料などの支払」などについて、「該当しない」は、2割から

# 生活不安が ほとんどない リタイア世代

9.1%

3割で平均より多く、「起きそうにない」を上回っている。健康面では、「家族の心身の健康」はやはり「該当しない」が45%と平均の2倍にも上る。「重い病気やケガ」「介護の必要」は「起きるかもしれない」が少し平均を上回っているが、「該当しない」も平均を上回っている。

◎ 人間関係の不安も少ない

「信頼できる友人無」「近所の人と疎遠」「親類と疎遠」「家族の中で孤独」の各項目について、「該当しない」が5割から6割に上り高い割合となっている。また、具体的に頼りになる人は図のとおり少ないが、回答としては「該当しない」がそれぞれの項目で7割から8割と多い。そのような場面を想定する必要性を感じていない、ということであろうか。

◎ 生活の満足感は平均的

満足層は66%、不満層は16%とほぼ全体平均に近い。

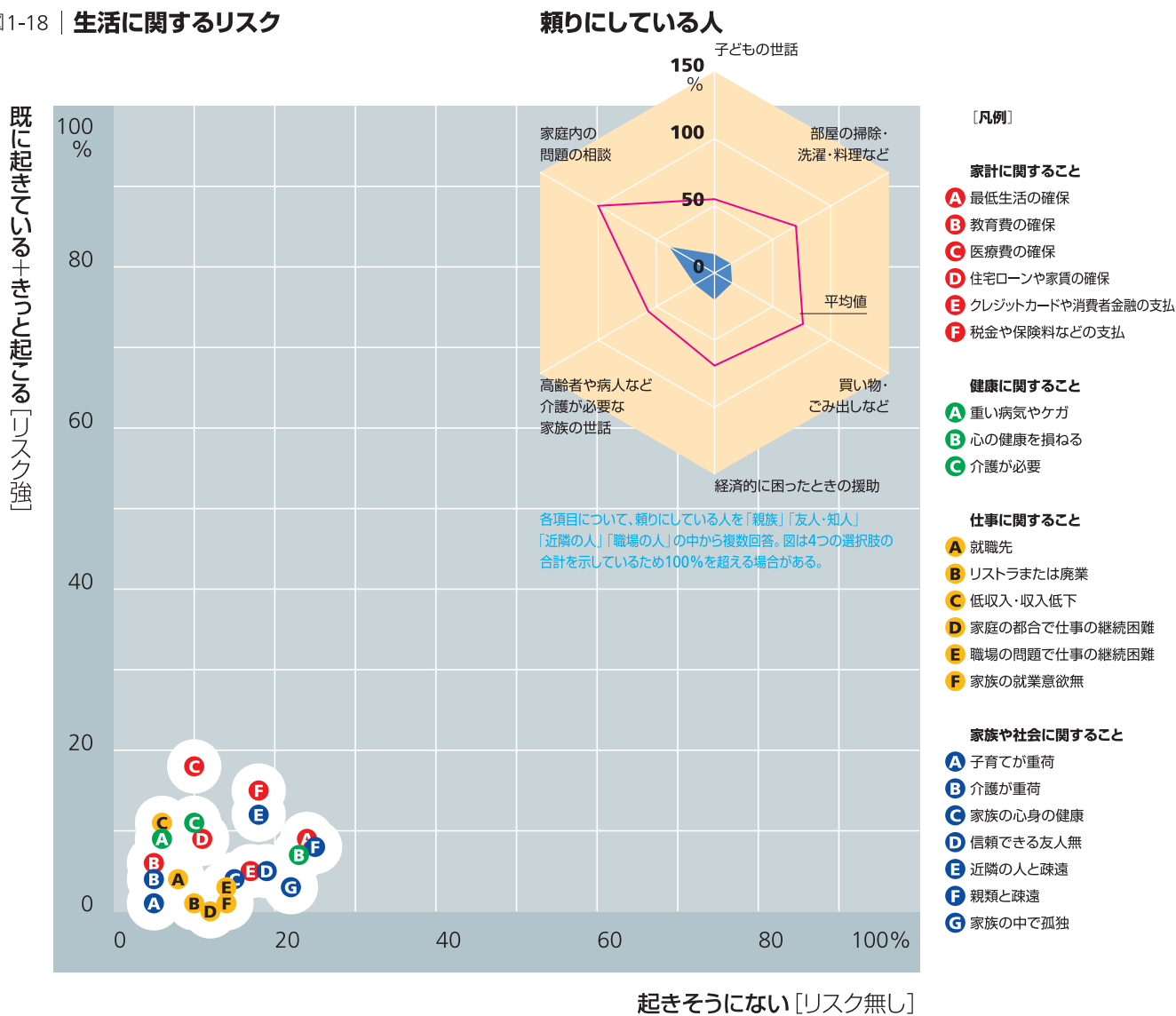
◎ 喜び・生きがい

「学業、教養のための勉強・学習」がやや平均より多いが、「特にない」も12%で平均を上回っている。

◎ 市政の満足層はやや多い

満足層は35%とやや平均より多い。市政要望は、ほとんどの項目でやや平均を下回っているものが多い。

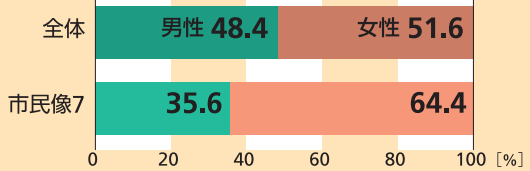
図1-18 | 生活に関するリスク



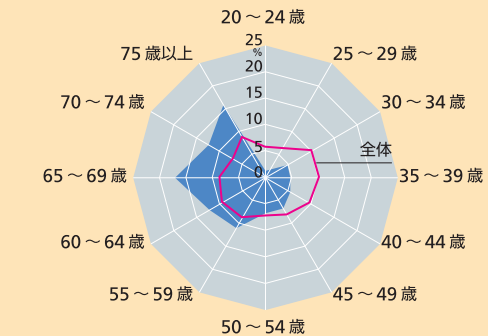
各項目について、「既に取り組み中」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に取り組み中」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したものである。

## 市民像 7 のプロフィール

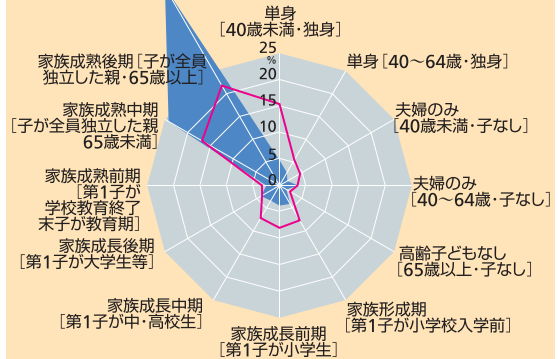
### 性別



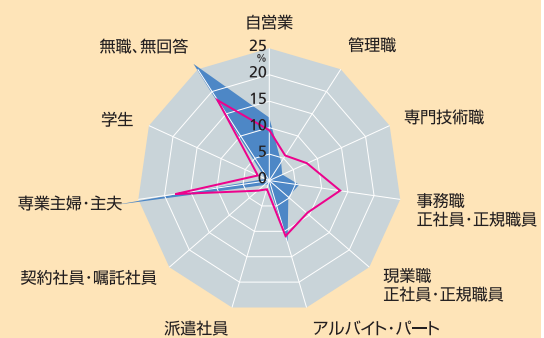
### 年齢



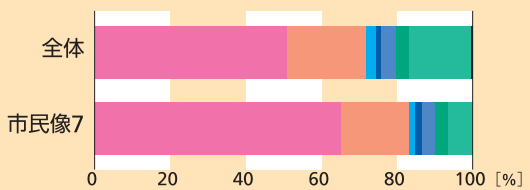
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



■ 持家 [一戸建て] ■ 持家 [マンション・共同住宅]  
■ 借家 [一戸建て] ■ 借家 [県営・市営の共同住宅]  
■ 借家 [都市再生機構(旧公団)、公社の共同住宅]  
■ 社宅、公務員住宅 ■ 民間アパート、民間賃貸マンション ■ その他

# 7 市民像

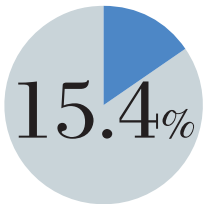
## ◎ 介護や健康面で比較的強いリスク

「介護が必要になる」で約3割、「重い病気やケガ」では25%、「介護が重荷」で25%と強いリスクを感じている人がかなり平均を上回っているが、生活費の面での心配は少ない。

## ◎ 人間関係でのリスクはほとんどない

「信頼できる友人無」「近隣と疎遠」「親類と疎

病気や介護の不安があるが、人間関係に恵まれた高齢者



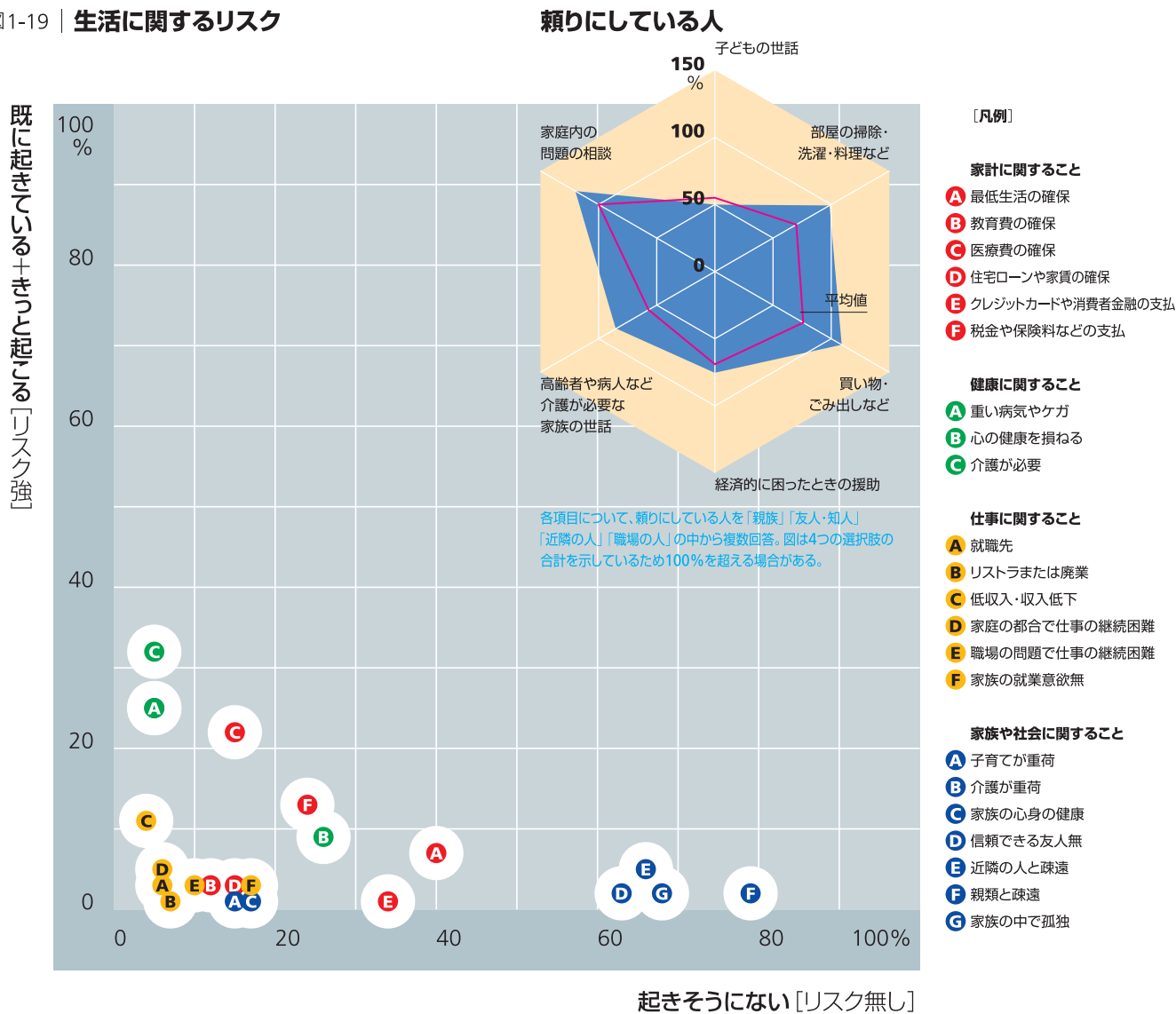
遠」「家族の中で孤独」については、「起きそうにない」6割から8割と高い割合となっている。具体的な日常的場面での頼れる人も図のとおり多く、「親族」のみでなく「友人・知人」や「近所の人」にも頼める人の割合が高い。大切に行っているのは「家族」が99%と高く、その次に大切な人は、「親族」の72%で、「近所所の友人・知人」「趣味・スポーツ・ボランティア活動の友人・知人」も15%で他のグループと比べて最も多い。

◎ **生活の満足感が高い**  
満足層は7割以上で平均よりかなり高い。

◎ **喜び、生きがいは豊富**  
「友人とのつきあい」「家族との団らん」「趣味やスポーツ活動」がいずれも6割を超え「社会的な活動」も11%と、他のグループの中で最も高い割合である。

◎ **市政全体の満足度高い**  
市政全体の満足層は37%と他のグループの中で最も高い。一方、市政要望は、身近なまちの環境整備の領域、自然環境の領域、「地震など災害対策」などの生活の安全領域、医療・福祉領域、社会参加の領域など、ほぼすべての領域についての要望が高く、市政への関心が高い。

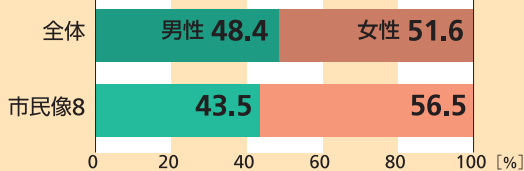
図1-19 | 生活に関するリスク



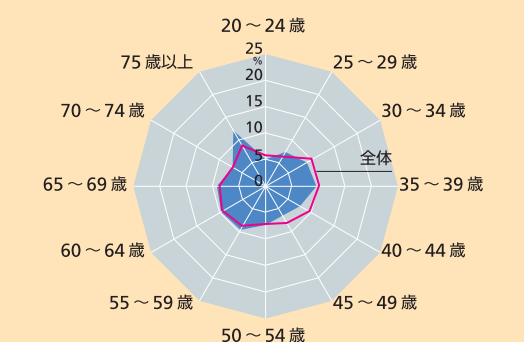
各項目について、「既に取り上げている」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に取り上げている」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したものである。

## 市民像 8 のプロフィール

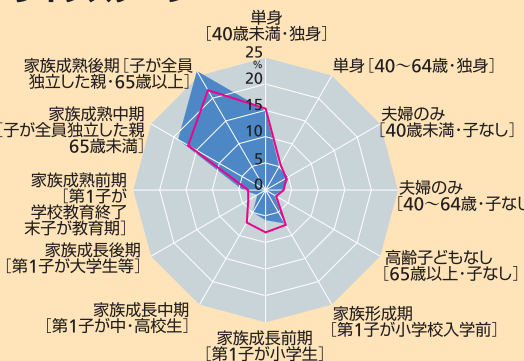
### 性別



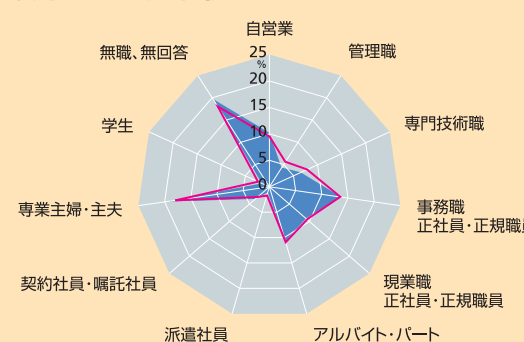
### 年齢



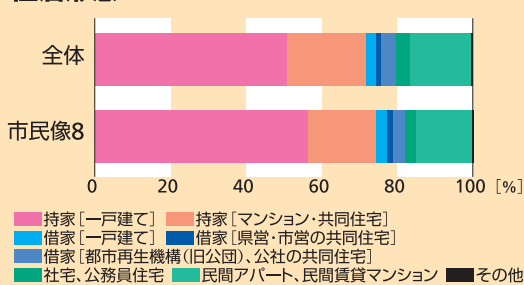
### ライフステージ



### 職業および就業形態



### 住居形態



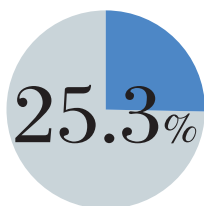
# 市民像

# 8

生活費、健康、仕事など

どの項目でも強いリスクはない

「最低生活の確保」「医療費の確保」「税金や保険料の支払い」などの生活費に関しては強いリスクはほとんどないが、「起きるかもしれない」という漠然とした不安や「該当しない」の割合が高い。また「重い病気やケガ」「心の健康」「介護が必要」「家族の心身の健康」など健康面でも強いリスク



世代にかかわりなく  
市民 平穏に暮らしている

生活満足感、市政全体への満足度、喜びや生きがい、居住環境(住まいの環境の暮らしやすさ)の全体値については138頁を参照 | 大切にしている人は43頁を参照



を感じていないが、全くリスクが無いというわけではなく、「起きるかもしれない」「該当しない」が高い割合である。

◎ 人間関係についても、**リスク感が少ない**

人間関係のリスクについては、どの項目でも「該当しない」と答えた人の割合が高い。日常生活で頼める人は、「部屋の掃除・洗濯・料理など」は親族が85%と他のグループに比べて最も高い割合である。他の項目でも「頼める人」は7割から8割と高い。大切にしている人は、家族が95%と多い。

◎ **生活の満足感が高い**

「満足」が27%と高く、「やや満足」を合わせて満足層は73%に上り、最も満足感が高いグループである。

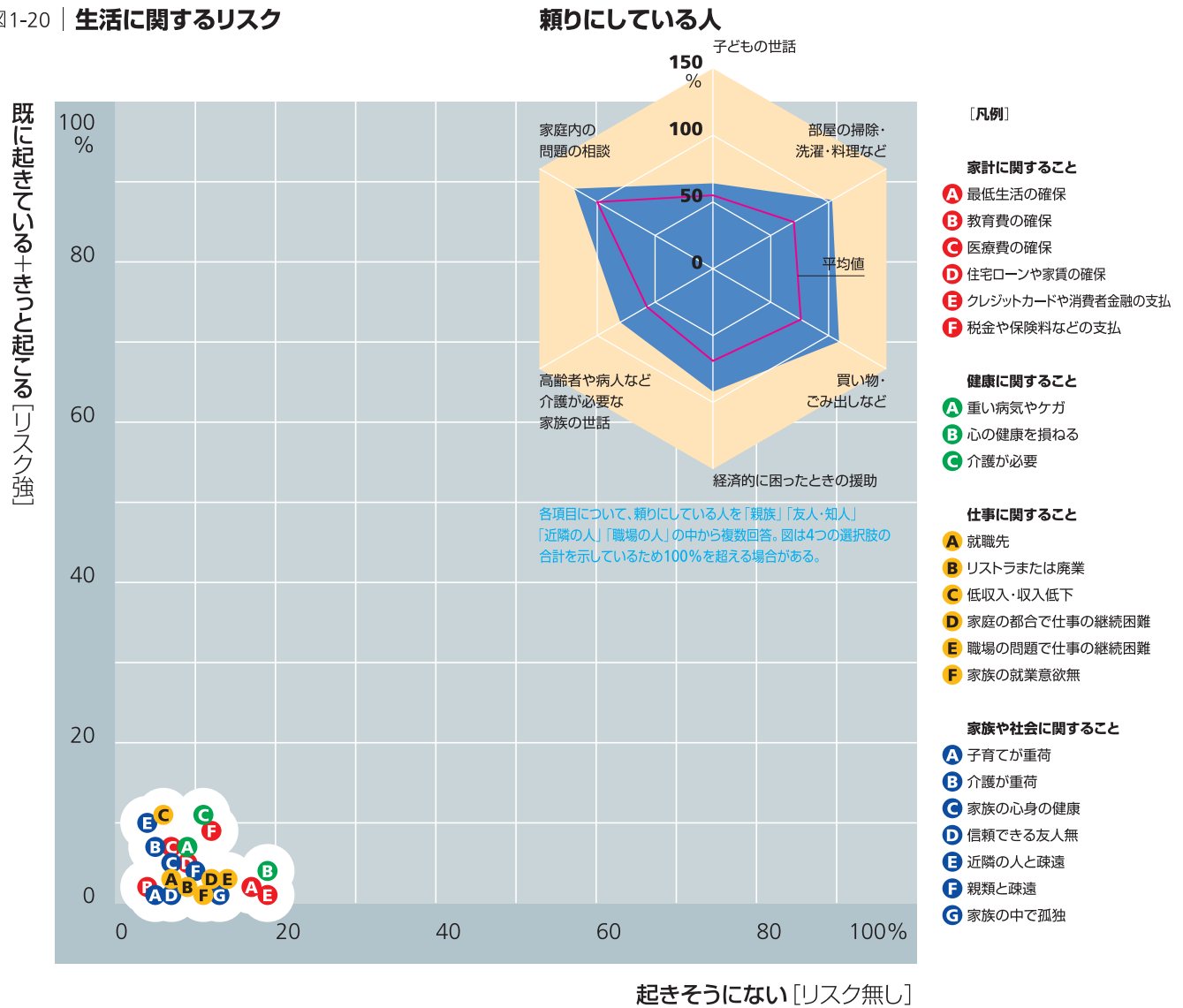
◎ **喜び・生きがい**

「家族との団らん」「友人との付き合い」が6割を超え多い。

◎ **市政への満足層がやや多い**

市政への満足層は、34%と平均よりやや多い。市政要望は、とくに特徴がない。居住環境についての評価は、どの項目でも「よい」「どちらかというよい」が多く、最も評価の高いグループである。

図1-20 | 生活に関するリスク



各項目について、「既に起きていて」「きつと起こる」「起きるかもしれない」「起きそうにない」「該当しない」の中から回答。上図は項目ごとに「既に起きていて」と「きつと起こる」の割合の合計を縦軸に、「起きそうにない」の割合を横軸に表したものを示している。